

1. 教師の10分間発表・・・・・・・・時間を決めてきちんと発表する(9分30秒~10分)

- ・福田祐二先生(西宮・鳴尾小学校)
- ・野村大祐先生(芦屋・打出浜小)
- ・中西弘一先生(尼崎・大島小)
- ・畦田理恵先生(西宮・樋ノ口小)

2. 教師の発表は、すればするほどうまくなる

- ・〇〇研究会、〇〇研究集会・・・・・・・・そんな機会に発表を!
- ・教師はおしゃべり・・・・・・・・発言が少ないと不安? ダラダラしゃべりすぎ
- ・時間を決めて発表する経験を
- ・〇〇研究集会では、PTAの発表の方が上手。先生は時間を守らない。
- ・20分以上の発表は、聴いていてしんどくなる。ダラダラ30分は最悪
- ・原稿をつくる習慣を

3. 子どもの発表もすればするほどうまくなる

- ・子どもに発表させると、教師はとにかく「やった気」になりやすい。
でも同じやるならしっかり力をつけてやる。「できた!」という自信をつけてやる。
- ・グループ発表では「子どもたちが調べてやりました」気になっている
- ・一人ひとりに力をつけようと思うなら、一人ひとりに経験させる
- ・教室以外の朝礼台や体育館での発表の機会もどんどんつくる

4. 厳粛な発表会 その雰囲気をつくる

- ・子どもは雰囲気があれば、その気になる。緊張する体験はすばらしい。
マイクのセット、録音、表題、レジメ、観衆 〇〇発表会 〇〇ホール
- ・子どもに成功体験をさせるには、やはり練習。練習すれば出来る経験を
- ・発表の仕方の基本を教える。原稿用紙1枚を80秒で読む。声の大きさ。
- ・普段の生活でも一人で発表させる機会をつくる。慣れは大事。朝の会

5. 子どもの発表を待つ姿勢

- ・最初から子どもはうまく発表できない。沈黙もある、でもがまんして待つ
- ・発表は恥ずかしくないという雰囲気づくり。詩・教室はまちがうところだ

6. 教師もやってみよう 原稿用紙1枚(400字)を80秒で読む練習

練習原稿（原稿用紙1枚 80秒で）

昨年4月以降、九州、四国、中国、近畿、東海、北陸、関東、北海道と、ほぼ全国を回ってきました。講演の内容のほとんどは人権教育に関するのですが、中でも同和問題に関しては、地域間の温度差をかなり感じるようになりました。私自身の体感としては、やはり東に行けば行くほど、同和問題への関心は低いような気がしました。

北海道の例を出してみましよう。講演のテーマは人権教育を基盤とした「地域づくり」と「子育て」でしたが、講演会のあとの懇親会で地元の方から質問が出ました。

「同和問題についてもう少し教えてください。私らほとんど何も知らないので・・・」
私は懇親会という席ではありましたが、真顔になって説明を始めました。するとその方は「それ、おかしいっしょー」と一言。その表情は、まるで子どもが何かに出会って驚いた時のようでもありました。

3月の予定 3月18日（土）10:00～ 若竹公民館

- ・ 指導案をしっかりと書こう 2つの指導案を読み比べて考える
- ・ 4月のスタートをどうきるか よし頑張るぞ！という始業式にするために